

# Create! Form アップデートマニュアル

[V 5→V 8]

FormPrint

FormCast

2008年4月

インフォテック・アーキテクト株式会社

## 目次

1. はじめに .....	3
2. 互換性の概要 .....	4
3. アップデートの概要 .....	6
4. アップデート手順 .....	8
4.1. V8製品のインストール .....	8
4.2. 互換性に関わる項目の確認 .....	9
4.3. 互換設定の適用 .....	11
4.3.1. 開発環境 .....	11
4.3.2. 運用環境 .....	12
4.4. 資源ファイルの変換 .....	14
4.5. 資源ファイルの修正 .....	14
4.6. ユーザー設定ファイルの移行 .....	15
4.6.1. QDFファイルのコピー .....	15
4.6.2. データ編集定義のコピー .....	15
4.6.3. 外字ファイルのコピー .....	16
4.6.4. カラーパレットファイルのコピー .....	16
5. 互換性の詳細 .....	17
6. おわりに .....	30

## 1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性（上位互換性）の課題となります。

Create!Form は従来のもとの互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または利用技術の変化や市場のニーズに追従させる事などの目的で改良を行いますが、この改良を行う時には、従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するように努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本説明書では、Create!Form 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン：Version 5（以下V5と記述）

アップデートバージョン：Version 8（以下V8と記述）

※本マニュアルで、「開発環境」については Create! FormDesign、「運用環境」については Create! FormCast、Create! FormPrint の製品が導入された環境を示します。

## 2. 互換性の概要

V5からV8へのアップデートにおいて基本的には互換性がありますが、一部の仕様が変更されていますので、そのままでは出力結果において従来と差異を生じる場合があります。ここでは、どのような差異があるか、どのようにアップデートを行うかの計画を立てるために、その概要について説明します。

以下に、V5からV8において仕様に差異のある機能について記述します。(互換性に関わる仕様一覧の)各項目は、帳票の入力データの形式や、機能により分けて列挙してあります。項目には、A、B、C、... の識別文字が付加されていますが、これは、本説明書を通して共通して使用している識別文字です。それぞれの詳細については、「5. 互換性の詳細」にて説明しています。

### ■ 互換性に関わる仕様一覧

[フォーム関連]

- A. テキスト変数の文字間隔の扱い
- B. イメージ変数の出力位置の扱い (Print のみ)
- C. 同名の変数名の扱い (Print のみ)
- D. テキスト変数の流し込み処理の扱い
- E. テキスト変数の配置設定の扱い

[機能関連]

- F. データ編集における数値フォーマット編集の扱い
- G. データ編集における数値有効桁の扱い
- H. 空データに対するデータ編集の扱い
- I. フォーム変数の扱い

[入力データ関連]

- J. 0バイトの入力データの扱い
- K. CSVデータの最終行の扱い
- L. CSVデータの改ページ文字の扱い

[出力形式関連]

- M. コマンドフォーマット出力の扱い

[フォント関連]

- N. PDFファイルの表示フォントの扱い (Cast のみ)
- O. PostScriptフォントの表示の扱い

これらの各項目については、特定の設定を行うことで互換性を維持できるものとフォームファイルなどの資源ファイルを変更して対応できるものがあります。以降では、導入と互換性を維持するためにはどのように対処すればよいかについて記述してあります。

### **重要**

V5 ご利用の際に、さらに下位のバージョン（V4）の互換設定を行っていた場合は、V8 においても、その互換設定が必要となります。下位バージョンの互換設定につきましては、対応するバージョンのアップデートマニュアルに記載されております。アップデートマニュアルは弊社サポート HP よりダウンロードできます。

[V4 用アップデートマニュアル]

- ・ Create!Form アップデートマニュアル [V4→V8]  
固定テキスト幅と領域枠の扱い

### 3. アップデートの概要

V5からV8へのアップデートは、通常次のような流れになります。

- ・ V8製品のインストール
- ・ V5資源ファイルからV8資源ファイルへの変換
- ・ V5ユーザー設定ファイルのV8環境への移行

上記作業を行うことでV8での出力を行うことは可能となりますが、そのシステムでご利用の帳票が、「互換性に関わる仕様一覧」のいずれかの項目に該当する場合は、その該当項目についてV5での出力と同じ結果が得られない可能性があります。出力結果を同じにするためには、**互換性を保つための作業**を行う必要があります。

ご利用の帳票が「互換性に関わる仕様一覧」の項目該当するかどうかは、製品の資源ファイルバージョンアップツール (UpToV8) にて確認することができます。これについては、「4.2 互換性に関わる項目の確認」をご覧ください。

互換性を保つための作業とは、次の2つの作業になります。

- ・ 互換設定の適用
- ・ 資源ファイルの修正

この2つの作業は、「互換性に関わる仕様一覧」の該当する項目により、どちらか一方、もしくは両方を行う必要があります。

#### 互換設定の適用

互換設定は、Create!Form の設定ファイル (Windows) や、環境変数 (Linux/UNIX) に固有の設定を追加することで、V5と同等の出力結果を得ることが可能になるものです。互換設定が用意されている項目に対して、それぞれ設定を追加します。互換設定が用意されている「互換性に関わる仕様一覧」の項目は以下のとおりです。

- A. テキスト変数の文字間隔の扱い
- B. イメージ変数の出力位置の扱い
- D. テキスト変数の流し込み処理の扱い
- F. データ編集における数値フォーマット編集の扱い
- H. 空データに対するデータ編集の扱い
- J. 0バイトの入力データの扱い
- K. CSVデータの最終行の扱い
- O. PostScript フォントの表示の扱い

実際の設定は、以降のアップデート手順、および「5. 互換性の詳細」の各項目の記述に沿って実施してください。

### **資源ファイルの修正**

資源ファイルの修正を行うことでV5と同等の出力結果を得ることが可能になるものです。資源ファイルの修正の対象となる「互換性に関わる仕様一覧」の項目は以下のとおりです。

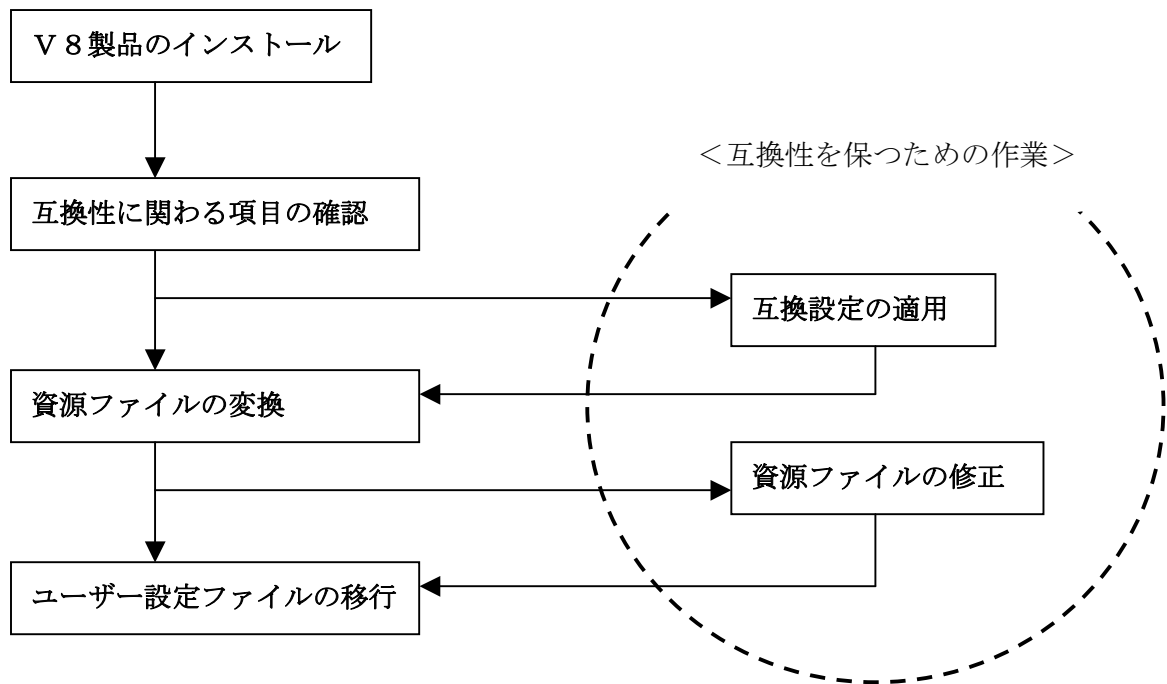
- C. 同名の変数名の扱い
- E. テキスト変数の配置設定の扱い
- I. フォーム変数の扱い
- L. CSV データの改ページ文字の扱い

実際の資源ファイルの修正は、以降のアップデート手順、および「5. 互換性の詳細」の各項目の記述に沿って実施してください。

## 4. アップデート手順

ここからは手順に従って、V5 を利用しているシステム環境に V8 をインストールしてアップデートしていきます。インストール手順は図1のような流れとなります。

図1. アップデートの流れ



資源ファイルとは、フォーム、データマップ、スタイルの各帳票資源ファイルのことをいいます。ユーザー設定ファイルとは、各種の実行制御を行う設定を記述する QDF ファイルなどをいいます。

V5 の出力と同じ結果を得るための互換性のあるインストールを行う場合は、点線の円内の作業もあわせて行います。以降では、四角で示したそれぞれの作業について、順を追って説明していきます。

### 4.1. V8 製品のインストール

まず最初に V8 製品のインストールを行います。V8 製品のインストールは、V8 製品の「導入・チュートリアルガイド」の第1部の手順で行っていただきますが、以前の V5 製品とは異なるディレクトリへインストールしてください。インストールは、利用する製品すべてを行います。(ここでは、FormDesign、FormPrint、FormCast のいずれか、または全て。)



## 4.2. 互換性に関わる項目の確認

ご利用の帳票が「互換性に関わる仕様一覧」の項目に該当するかどうかは、製品付属の資源ファイルバージョンアップツール（以後、UpToV8）にて確認することが出来ます。

V5において、確認できる項目は以下のとおりです。確認項目は、資源ファイルごと分かれています。

- ・ fm5 ファイル（フォームファイル）
  - A. テキスト変数の文字間隔の扱い
  - B. イメージ変数の出力位置の扱い（Print のみ）
  - C. 同名の変数名の扱い（Print のみ）
  - D. テキスト変数の流し込み処理の扱い
  - E. テキスト変数の配置設定の扱い
  
- ・ dmp ファイル（データマップファイル）
  - F. データ編集における数値フォーマット編集の扱い
  - G. データ編集における数値有効桁の扱い
  - I. フォーム変数の扱い
  
- ・ sty ファイル（スタイルファイル）
  - K. CSV データの最終行の扱い
  - L. CSV データの改ページ文字の扱い
  - M. コマンドフォーマット出力の扱い

確認は以下の手順で行います。

- ① V8 製品付属の“UpToV8”を起動します。  
スタートメニュー、デザインマネージャのツリー上の右クリックメニューより起動できます。
- ② 「変換元ディレクトリ」にV5の資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
- ③ 「V8互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
- ④ “チェックが終了しました。”のメッセージが表示されると、製品導入ディレクトリ直下の log ディレクトリにチェック結果のログファイル“UpToV8\_Diff.log”が出力されます。

### [ログファイルの見方]

- ・ [作業ディレクトリ:] …… 変換元ディレクトリで選択したディレクトリ名が表示されます。

- ・ ファイル名 …… チェックしたファイル名が「———」で囲まれて表示されます。チェック対象のファイルは、変換元で指定した作業ディレクトリ下の「\*.fm5」「\*.dmp」「\*.sty」ファイルの順で表示されます。
- ・ <チェック項目（互換性に関わる項目）> …… 上記確認項目のタイトルと該当する設定がファイルに存在する場合は、その情報（オブジェクト No など）が表示されます。

<fm5 ファイル（フォームファイル）のチェック項目>

<テキスト変数の文字間隔の扱い>

「A. テキスト変数の文字間隔の扱い」に該当する設定が存在するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「No.\* 該当する変数名」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

<イメージ変数の出力位置の扱い>

「B. イメージ変数の出力位置の扱い」に該当する設定が存在するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「No.\* 該当する変数名」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

<同名の変数名の扱い>

「C. 同名の変数名の扱い」に該当する設定が存在するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「No.\* 該当する変数名」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

<テキスト変数の流し込み処理の扱い>

「D. テキスト変数の流し込み処理の扱い」に該当する設定が存在するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「No.\* 該当する変数名 [流し込み]」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

<テキスト変数の配置設定の扱い>

「E. テキスト変数の配置設定の扱い」に該当する設定が存在するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「No.\* 該当する変数名 [流し込み | 自動改行]」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

<dmp ファイル（データマップファイル）のチェック項目>

#### <数値フォーマットデータ編集>

「F. データ編集における数値フォーマット編集の扱い」、「G. データ編集における数値有効桁の扱い」に該当する設定が存在するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「該当する変数名」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

#### <フォーム変数の扱い>

「I. フォーム変数の扱い」に該当する設定が存在するかどうかを表示します。

該当する設定が存在する場合は、「\$FORM [フォーム変数あり]」が表示されます。

該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

<sty ファイル（スタイルファイル）のチェック項目>

#### <入力データ形式>

「K. CSV データの最終行の扱い」、「L. CSV データの改ページ文字の扱い」、「M. コマンドフォーマット出力の扱い」に該当するデータ形式かどうかを表示します。

[CSV]と表示されている場合は、「K」「L」に該当します。

また、[コマンドフォーマット]と表示されている場合は、「M」に該当します。

### 4.3. 互換設定の適用

ここで説明する互換設定は、「**互換性に関わる仕様一覧**」に該当し、その対応を行う場合に設定します。開発環境と運用環境のそれぞれの製品について、また運用環境については OS 毎に記述してありますので、ご利用の製品記述の部分をお読みください。

尚、互換設定の各項目に該当しない場合、この作業は行う必要はありません。

#### 4.3.1. 開発環境

開発環境の互換設定について説明します。開発環境は Windows の FormDesign 製品です。次の手順で該当項目のそれぞれの設定を行います。

<各互換設定の適用>

- ① V8 の FormDesign 導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”をテキストエディタで開きます。
- ② 互換設定を記述します。
  - ・ [Cast]セクションに”FontKerning=2”と入力します。 (A の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”ImageOffset=1”と入力します。 (B の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”ParaEditMode=1”と入力します。 (D の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”DataEditMode=4”と入力します。 (F の互換設定)

- ※ [Common]セクションに”DataEditMode=1”と入力します。 (Hの互換設定)  
(※Fの互換設定を設定している場合は設定する必要はありません。)
  - ・ [Common]セクションに”EmptyPageMode=1”と入力します。 (Jの互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”CSVInputMode=1”と入力します。 (Kの互換設定)
  - ・ [Form]セクションに”ChangeFontType=1”と入力します。 (Oの互換設定)
- ③ “CreateV8.ini”を上書き保存します。

#### <Aの互換設定(Print)の適用>

- ① 弊社より提供の”kern2mul.dct”をV8のFormDesign 導入ディレクトリ直下の”dict”ディレクトリに保存します。※”kern2mul.dct”は弊社サポート HP よりダウンロードできます。
- ② V8のFormDesign を起動します。
- ③ ツールメニュー[オプション]-[QDF エディタ]をクリックします。
- ④ 運用で使用している QDF ファイルを選択します。※
- ⑤ [サブ辞書]の[参照]ボタンをクリックします。
- ⑥ [選択可能ファイル]から”kern2mul”を選択して、[追加]ボタンをクリックします。
- ⑦ [OK]ボタンをクリックします。
- ⑧ [保存]ボタンをクリックします。
- ⑨ その他に運用で使用している QDF ファイルがあれば、再度⑦から適用を行います。
- ⑩ [終了]ボタンをクリックします。

※ランタイム実行時に QDF ファイルの指定を行っていない場合は、”default.qdf”が自動的に使用されますので、”default.qdf”についても上記設定を行ってください。また”default.qdf”に適用を行う前に、オリジナルの”default.qdf”をコピーし、バックアップをとることをお勧めします。

### 4.3.2. 運用環境

運用環境の互換設定について説明します。運用環境は FormPrint、FormCast の製品種別と、Windows、UNIX の OS 種別で分けて説明しています。次の手順で該当項目のそれぞれの設定を行います。

#### 4.3.2.1. Print 製品

[Windows、UNIX 共通]

- ① 「4.3.1. 開発環境」で適用した QDF ファイルを、V8ランタイム導入ディレクトリに転送します。
- ② 弊社より提供の”kern2mul.dct”をV8ランタイム導入ディレクトリ直下の”dict”ディレクトリに転送します。

※各ファイルとも転送時には、アスキーモードを指定してください。

#### [Windows 製品]

- ① V8 のランタイム製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”をテキストエディタで開きます。
- ② 互換設定を記述します。
  - ・ [Common]セクションに”ImageOffset=1”と入力します。 (B の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”ParaEditMode=1”と入力します。 (D の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”DataEditMode=4”と入力します。 (F の互換設定)
  - ※ [Common]セクションに”DataEditMode=1”と入力します。 (H の互換設定)  
(※F の互換設定を設定している場合は設定する必要はありません。)
  - ・ [Common]セクションに”EmptyPageMode=1”と入力します。 (J の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”CSVInputMode=1”と入力します。 (K の互換設定)
- ③ “CreateV8.ini”を上書き保存します。

#### [UNIX 製品]

- ① 環境変数 ”CREATE\_IMAGEOFFSET” に”1”を設定します。 (B の互換設定)
- ② 環境変数 ”CREATE\_PARAEDITMODE” に”1”を設定します。 (D の互換設定)
- ③ 環境変数 ”CREATE\_DATAEDITMODE” に”4”を設定します。 (F の互換設定)
- ※ 環境変数 ”CREATE\_DATAEDITMODE” に”1”を設定します。 (H の互換設定)  
(※F の互換設定を設定している場合は設定する必要はありません。)
- ④ 環境変数 ”CREATE\_EMPTYPAGEMODE” に”1”を設定します。 (J の互換設定)
- ⑤ 環境変数 ”CREATE\_CSVINPUTMODE” に”1”を設定します。 (K の互換設定)

### 4.3.2.2. Cast 製品

#### [Windows 製品]

- ① V8 のランタイム導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”をテキストエディタで開きます。
- ② 互換設定を記述します。
  - ・ [Cast]セクションに”FontKerning=2”と入力します。 (A の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”ParaEditMode=1”と入力します。 (D の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”DataEditMode=4”と入力します。 (F の互換設定)
  - ※ [Common]セクションに”DataEditMode=1”と入力します。 (H の互換設定)  
(※F の互換設定を設定している場合は設定する必要はありません。)
  - ・ [Common]セクションに”EmptyPageMode=1”と入力します。 (J の互換設定)
  - ・ [Common]セクションに”CSVInputMode=1”と入力します。 (K の互換設定)
- ③ “CreateV8.ini”を上書き保存します。

## [UNIX 製品]

- ① 環境変数 "CREATE\_KERNING" に"2"を設定します。 (Aの互換設定)
- ② 環境変数 "CREATE\_PARAEDITMODE" に"1"を設定します。 (Dの互換設定)
- ③ 環境変数 "CREATE\_DATAEDITMODE" に"4"を設定します。 (Fの互換設定)
- ※ 環境変数 "CREATE\_DATAEDITMODE" に"1"を設定します。 (Hの互換設定)  
(※Fの互換設定を設定している場合は設定する必要はありません。)
- ④ 環境変数 "CREATE\_EMPTYPAGEMODE" に"1"を設定します。 (Jの互換設定)
- ⑤ 環境変数 "CREATE\_CSVINPUTMODE" に"1"を設定します。 (Kの互換設定)

#### 4.4. 資源ファイルの変換

この資源ファイルの変換作業は、互換性の問題にかかわらず必ず行います。

V5で作成使用していた帳票資源ファイルを変換ツール (UpToV8) を使用してV8で利用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換したV8の資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送して利用します。

- ① V5の資源ファイル一式を FormDesign V8をインストールしたマシンに保存します。
- ② V5の資源ファイルを、V8製品付属の変換ツール (UpToV8) で、V8の資源ファイルに変換します。

変換ツールについての詳しい説明は、V8製品の「ユーティリティガイド」の第1章をご覧ください。

#### 4.5. 資源ファイルの修正

この資源ファイルの修正作業は、「互換性に関わる仕様一覧」のうち、以下の項目に該当し、その対応を行う場合に実施します。資源ファイルのV8への変換後、V8開発環境にて資源ファイルに修正を行う手順となります。以下の項目に該当しない場合は行う必要はありません。

- C. 同名の変数名の扱い
- E. テキスト変数の配置設定の扱い
- I. フォーム変数の扱い
- L. CSVデータの改ページ文字の扱い

詳細な作業手順については、「5. 互換性の詳細」のそれぞれの項目の説明を参照して行ってください。

修正した帳票資源ファイルは、運用環境にコピー、または転送して利用します。

## 4.6. ユーザー設定ファイルの移行

V5で使用しているユーザー設定ファイルをV8環境へ移行する作業を行います。

ユーザー設定ファイルには、次のようなファイルがあります。

- ・ QDF ファイル
- ・ データ編集ファイル
- ・ 外字ファイル
- ・ カラーパレットファイル

V5環境にて、独自の設定を追加している場合、そのファイルをV8の環境にコピーする必要があります。

### 4.6.1. QDF ファイルのコピー

V5で使用している QDF ファイルを、全てV8の導入ディレクトリに上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

- ① V8の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”default.qdf”ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V5の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子”.qdf”のファイル (QDF ファイル)を全て、V8の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

### 4.6.2. データ編集定義のコピー

データ編集においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、弊社が提供しているデータ編集とは別に、ユーザーが新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。

ユーザー定義編集を追加していなければ、以下の手順は必要ありません。

この作業は、開発環境にて行います。

- ① V5の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”EFmEdit.dat”ファイルをテキストエディタで開きます。
- ② V8の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”EFmEdit.dat”ファイルをテキストエディタで開きます。
- ③ ①で開いたファイルの、ご使用のバージョンごとに指定された行のテキストデータを、②で開いたファイルの最終行へコピーします。**※下記の表を参照してください。**
- ④ ②で開いたファイルを上書き保存します。

#### ※コピー対象となる行

既存バージョン	コピー対象となる行
V5.0、V5.1、V5.2	33行目以降

#### 4.6.3. 外字ファイルのコピー

外字をご使用の場合、外字ファイル（標準では gaiji.fnt、gaiji.pfn）をV8環境へコピーします。外字を使用していない場合は、この作業を行う必要はありません。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

- ① V5の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”font”ディレクトリの外字ファイル（標準では gaiji.fnt、gaiji.pfn）を全て、V8の Create!Form 導入ディレクトリ直下の”font”ディレクトリにコピーします。

#### 4.6.4. カラーパレットファイルのコピー

V5でユーザー独自の色を作成追加、利用している場合は、そのカラーパレットファイルをV8の導入ディレクトリに上書きします。

色の追加を行っていない場合は、この作業を行う必要はありません。

この作業は、開発環境にて行います。

- ① V8の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” default.plt”ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V5の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子”.plt”のファイル（カラーパレットファイル）を全て、V8の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。



## 5. 互換性の詳細

ここでは、「2. 互換性の概要」で記述された「**互換性に関わる仕様一覧**」のそれぞれの詳細について説明しています。

「**互換性に関わる仕様一覧**」の各項目の先頭に付加されたアルファベットは、以下の説明と共通で、同じ並び順で説明されています。各項目は次のような形式で記述されています。

### 識別アルファベット・項目タイトル

概要の記述。

[対象]

どのような場合に異なる結果となるかを記述。

[対処]

従来と同じ結果を維持するための対処について記述。

[解説]

補足的な説明記述。

### A. テキスト変数の文字間隔の扱い

入力データに対する文字間隔設定において、データが全角の時の処理仕様変更のため、出力結果に次のような差異が生じます。

- ・V5の場合、全角文字の次の文字間隔は指定した文字間隔の2倍で出力されます。
- ・V8の場合、全角文字の次の文字間隔は指定した文字間隔で出力されます。

[対象]

次の1のいずれかと2の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

#### 1. フォーム設定

- ・テキスト変数を利用して、テキスト変数の文字間隔を「0.000」以外に設定している場合。
- ・オーバレイ方式で文字間隔を「0.000」以外に設定している場合。

#### 2. 可変データ（実行時の可変データ）

- ・データに全角文字（2バイト文字）を使用している場合。

[対処]

次のような互換設定を行うことでV8をV5と同じように、指定した文字間隔の2倍で処理することができます。設定方法は、ご利用の製品によって異なりますのでご注意ください。

- ・ FormCast 製品を使用する場合

#### Windows

V8 の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”の[Cast]セクションに  
”FontKerning =2”と入力します。

#### UNIX

環境変数 ”CREATE\_KERNING” に”2”を設定します。

- ・ FormPrint 製品を使用する場合

#### Windows / UNIX

QDF ファイルのサブ辞書に「kern2mul.dct」を追加します。

※”kern2mul.dct”は弊社サポート HP よりダウンロードできます。

#### [解説]

文字間隔の値を指定した値に統一した仕様変更によります。V5での文字間隔は全角の場合、自動で2倍にしていたましたが、これは混乱しやすいという理由でV6から指定した値で統一されました。

- ・ 改良実装バージョン : V6

## **B. イメージ変数の出力位置の扱い (Print のみ)**

イメージ変数に EPS ファイルのデータを投入した時の、出力起点位置の補正機能を加えたことにより、V5とV8で出力位置が異なる場合があります。

#### [対象]

次の1から4の全ての条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. Print 製品を使用している場合。
2. イメージ変数を使用している場合。
3. EPS ファイルを使用している場合。
4. EPS ファイルが (0, 0) 座標以外を基準に作成されている場合。

#### [対処]

次のような互換設定を行うことで、V8でV5と同じ位置に出力することができます。

#### Windows

V8 の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”の[Common]セクションに、  
”ImageOffset = 1”と入力します。

#### UNIX

環境変数 ”CREATE\_IMAGEOFFSET” に”1”を設定します。

**[解説]**

一般的な画像は単体では座標を持ちませんが、高機能な EPS 形式のデータでは描画の基準座標を任意に設定することが可能です。V5では、この基準座標が(0, 0)の場合を前提にしていたので、そうでない EPS データの場合のズレを変数位置の調整で行った場合、V8の改良機能が働くとその調整位置に表示される結果となります。このズレの問題は、最終的には、基準座標が(0, 0)以外の EPS データを使用しているかどうか依存します。

- ・改良実装バージョン：V7

**C. 同名の変数名の扱い (Print のみ)**

一つの帳票に同名の変数名の変数オブジェクトが複数存在する場合、変数出力の仕様変更により以下のように違いがあります。

- ・V5の場合、全ての変数オブジェクトが表示されます。
- ・V8の場合、先に(下に)定義された変数が一つだけ表示されます。

**[対象]**

次の1、2の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. Print 製品を使用している場合。
2. フォームに同名の変数オブジェクト名を使用している場合。

**[対処]**

次のように帳票フォーム毎に設定を行うことで、V8でV5と同じ出力を行うことができますが、併せて、これによる機能制限についてもご確認ください。

**帳票フォームでの設定**

- ① 変数オブジェクトが複数使用されているフォームファイルをフォームエディタで開きます。
- ② [ファイル]メニューの[フォーム設定]をクリックします。
- ③ [ステータス]タブの[旧来方法の出力位置指定]チェックボックスにチェックを入れます。
- ④ [OK]ボタンをクリックします。
- ⑤ フォームファイルを上書き保存します。

**機能制限** (※上記設定を行うと、一部のV8の機能が使用できなくなります。)

<使用できなくなる機能>

1. CSV データの集計機能
2. CSV データの重複非表示機能

3. 動的オブジェクト機能
4. オブジェクト色の条件判別機能
5. テキスト変数のリスト形式データの出力機能

**[解説]**

Print 製品の PostScript 出力においては、PostScript 言語との協調による機能も幾つか含まれています。同名変数の出力もこのひとつですが、PostScript 出力以外の製品を追加していくにあたり、この機能の見直しを図った結果、分かりやすさ、機能の整合性などの問題により仕様の変更を行うことになりました。

・改良実装バージョン：V7

**D. テキスト変数の流し込み処理の扱い**

テキスト変数の配置設定を「流し込み」に設定した場合の処理可能なデータサイズを拡張したため、出力結果がV5とV8で異なることがあります。

**[対象]**

次の1、2の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. テキスト変数オブジェクトを使用している場合。
2. 配置設定を「流し込み」設定している場合。

**[対処]**

次のような互換設定を行うことで、V8でV5と同じ位置に出力することができます。

**Windows**

V8の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”の

[Common]セクションに”ParaEditMode = 1”と入力します。

**UNIX**

環境変数 ”CREATE\_PARAEDITMODE” に”1”を設定します。

**[解説]**

処理可能なデータサイズを拡張する改良を行ったことにより、V5におけるテキストデータが領域をはみ出すなどの現象が改善されております。この結果、出力結果がV5と異なりますが、表記の互換設定にて互換性を保つことが可能となっております。

・改良実装バージョン：V6

## E. テキスト変数の配置設定の扱い

フォームにおいて、「流し込み」「自動改行」に設定されているテキスト変数が、データマップにおいて「左」「中央」「右」に設定されている場合（フォームファイルとデータマップファイルにて設定の不整合が発生している場合）、次のように出力結果に差異が生じます。

- ・ V5 の場合、必ず「左」にて出力されます。  
データ編集を設定している場合は、データ編集が有効になります。
- ・ V8 の場合、フォームの設定（「流し込み」「自動改行」）で出力されます。  
データ編集は有効になりません。

### [対象]

次の 1、2 の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. テキスト変数オブジェクトを使用している場合。
2. フォームファイルで、「流し込み」「自動改行」を設定している場合で、さらに、データマップファイルで「左」「中央」「右」に設定している場合。

### [対処]

次に示すように、フォームファイルの配置設定を修正します。

#### 資源ファイルの修正

テキスト変数において、配置設定を「流し込み」「自動改行」から「左」に変更します。

### [解説]

テキスト変数の配置設定がフォームとデータマップで異なってしまうケースは、一度データマップを作成後に、フォームにおいてテキスト変数の配置設定を変更した際に発生します。V7において、データマップの設定をユーザーが意識せずとも配置設定が有効になるように改良を行いました。

- ・ 改良実装バージョン：V7

## F. データ編集における数値フォーマット編集の扱い

データを変換する「データ編集」機能には、多くの表示形式変換の機能が含まれますが、これらの中で、数字の形式変換における 2 つの仕様が変更されています。

### 1. 数字以外の文字を含む変換

数字の編集において、数字でないデータが編集対象となった際の出力結果が以下のよう異なります。

- ・ V5 の場合、数字部分だけが半角文字に変換されて出力されます。
- ・ V8 の場合、元の文字のまま出力されます。

## 2. 桁設定を行った場合の変換

数値の処理にて、「桁」設定（桁揃え設定）をしている場合の出力結果が以下のように異なります。

- ・ V5 の場合、必ず指定の桁数で出力されます。
- ・ V8 の場合、データが指定の桁に満たない場合、桁そろえされずそのまま出力されます。

### [対象]

次の 1 の条件と 2、3 のいずれかの条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. "DataEdit.dll" のバージョンが、"5.1.0.6"（V5.2 付属）をご利用の場合。  
（"DataEdit.dll" は、製品導入ディレクトリ直下に配置されています。）  
また、UNIX では、ランタイムバージョンが"5.11.0"、"5.20.0"をご利用の場合となります。（注）上記以外のバージョンは対象となりません。
2. 弊社提供の以下のデータ編集を使用している場合。
 

1234	→	1,234
1235（整数）		1,235（整数）
1234.6（小数 1 桁）		1,234.6（小数 1 桁）
1234.57（小数 2 桁）		1,234.57（小数 2 桁）
1234	→	¥1,234
-1234	→	△1,234
1234	→	▲1,234
3. ユーザーが「新規追加」したデータ変数で編集種別が「数値」「金額」を使用している場合。

### [対処]

次のような互換設定を行うことで、V8 で V5 と同じ編集結果となります。

#### Windows

V8 の製品導入ディレクトリ直下の "CreateV8.ini" の [Common] セクションに "DataEditMode = 4" と入力します。

#### UNIX

環境変数 "CREATE\_DATAEDITMODE" に "4" を設定します。

### [解説]

編集するデータの形式が異なる（数値の編集にて数値以外の文字）や、編集対象とする桁が存在しない場合など、データ編集が行えない場合には、元データをそのまま出力するように仕様変更されましたが、表記の互換設定にて互換性を保つことが可能となっています。

- ・ 改良実装バージョン：V7

## G. データ編集における数値有効桁の扱い

データを変換する「データ編集」機能で、対象となる数値データの最大桁を拡張したため、出力結果が以下のように異なります。

- ・ V5 の場合、14 桁以上の数値データに対してはデータ編集が行われません。
- ・ V8 の場合、桁数に関係なくデータ編集が行われます。

### [対象]

次の 1、2 のいずれかの条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. 弊社提供の以下のデータ編集を使用している場合。

1234→1,234

1235 (整数)                      1,235 (整数)

1234.6 (小数 1 桁)              1,234.6 (小数 1 桁)

1234.57 (小数 2 桁)            1,234.57 (小数 2 桁)

1234→¥1,234                    1234→¥1,234-

-1234→△1,234                 -1234→▲1,234

2. ユーザーが「新規追加」したデータ変数で編集種別が「数値」「金額」を使用している場合。

### [対処]

特に対処の内容はありません。

### [解説]

処理制限を拡張する改良を行っています。一般的に、14 桁でデータ編集を行わないようにする互換の必要性は無いと判断しています。

- ・改良実装バージョン：V6

## H. 空データに対するデータ編集の扱い

フリーフォーマットによるデータ編集を設定している場合、空データに対する編集処理が以下のように異なります。

- ・ V5 の場合、データ編集が行われます。  
たとえば、[ins]など文字列付加のデータ編集において、指定文字列が付加されます。
- ・ V8 の場合、データ編集が行われません。

### [対象]

次の 1、2 の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. フリーフォーマットのデータ編集を利用している場合。
2. データ変数を行った変数に“空データ”が割当てられた場合。

**[対処]**

次のような互換設定を行うことで、V8でV5と同じ編集結果となります。

**Windows**

V8の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”の[Common]セクションに  
”DataEditMode = 1”と入力します。

**UNIX**

環境変数 ”CREATE\_DATAEDITMODE” に”1”を設定します。

※) 上記「F. データ編集における数値フォーマット編集の扱い」の互換設定を設定している場合は、設定する必要はありません。

**[解説]**

改行など何もデータが無い場合は処理が行われないことに仕様が整えられました。

- ・改良実装バージョン：V8

**I. フォーム変数の扱い**

V5でのフォーム変数を使用してフォームを切り替える機能が、V8では新たに利用できないようになりました。

- ・V5の場合、フォーム変数でフォーム切り替えが可能。
- ・V8の場合、フォーム変数が利用できない。

**[対象]**

データマップファイルで、変数名”\$FORM”が存在する場合。

**[対処]**

次に示すように、フォーム変数を利用できるように設定を行います。

**資源ファイルの修正**

- ① V8の FormDesign を起動します。
- ② フォーム変数を指定したデータマップファイルが登録されているスタイルファイルを、スタイルエディタで開きます。
- ③ ユニット一覧の2行目（空白行）をダブルクリックします。  
**※1行目の[フォーム]は空白のままにする必要があります。**
- ④ ユニット設定ダイアログが表示されますので、[データマップ]-[追加]ボタンをクリックします。
- ⑤ フォーム変数を指定したデータマップファイルを選択して、[OK]ボタンをクリックします。
- ⑥ [フォーム]-[参照]ボタンをクリックします。



- ⑦ フォーム変数で参照されるフォームファイルをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。
- ⑧ ユニット設定ダイアログの[OK]ボタンをクリックします。
- ⑨ ③～⑧の手順を、フォーム変数で参照されるフォームファイルごとに繰り返します。
- ⑩ スタイルファイルを上書き保存します。

以上の手順で、V8においてもフォーム変数機能が有効となります。

②からの手順を、フォーム変数が使用されているデータマップファイルを登録しているスタイルファイル全てに行います。

#### [解説]

V8では、マルチフォーム機能が追加され、フォーム切り替えはこの機能に吸収されました。従来のフォーム変数の機能は互換のためのみに機能し、新規に作成する場合は、マルチフォーム機能を利用することになります。

・改良実装バージョン：V7

## J. 0バイトの入力データの扱い

空のデータファイルに対する処理の仕様が変更されたため、次のような差異が生じます。

- ・V5の場合、空白の帳票が出力されます。
- ・V8の場合、エラーとして処理を中断します。

#### [対象]

入力データファイルにデータが存在しない(0バイト)の場合。

#### [対処]

次のような互換設定を行うことで、V8でV5と同じ処理を行うことができます。

#### Windows

V8の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”の[Common]セクションに”EmptyPageMode = 1”と入力します。

#### UNIX

環境変数 ”CREATE\_EMPTYPAGEMODE” に”1”を設定します。

#### [解説]

空白のページを出力するということは、ページを送る指定(改ページ、空行)が必要であり、何もデータが無い場合は処理が行われないことに仕様が整えられました。

- ・改良実装バージョン：V5.1

## K. CSV データの最終行の扱い

CSV データの最終行の改行コードの処理において、仕様が変更されたため、次のような差異が生じます。

- ・V5の場合、最終行のデータが出力されます。
- ・V8の場合、最終行のデータが出力されません。

### [対象]

最終行の末尾に改行コードがない場合。

### [対処]

次のような互換設定を行うことで、V8でV5と同じ出力結果となります。

### Windows

V8の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”の[Common]セクションに”CSVInputMode = 1”と入力します。

### UNIX

環境変数 ”CREATE\_CSVINPUTMODE” に”1”を設定します。

### [解説]

「データ行の最後は必ず改行コードが必要である」ということを明確にし、標準データマップと仕様を統一しました。

- ・改良実装バージョン：V6

## L. CSV データの改ページ文字の扱い

CSV データで改ページ文字による改ページを行っている場合、改ページ文字の取扱いが変更されたため、次のような差異が生じます。

- ・V5の場合、改ページが行われます。
- ・V8の場合、改ページが行われません。

### [対象]

次の1～3のいずれかの条件でこの現象が発生します。

1. 改ページ文字による改ページを行っている場合。
2. 改ページ文字が行の先頭でない場合。
3. 改ページ文字の次に改行コードがない場合。

[対処]

次に示すように、データの改ページ文字の出力について変更します。

資源ファイルの修正

CSV ファイルの改ページ文字が、下記に該当する場合は CSV ファイルを修正します。

- ・改ページ文字が行の先頭でない場合。  
改ページ文字の先頭と改ページ文字の後に改行コードを挿入します。
- ・改ページ文字の次に改行コードがない場合。  
改ページ文字以降のデータを削除し、改行コードを挿入します。

[解説]

「改ページ文字の後は改行コードが必要である」ということを明確にして、仕様を統一しました。

- ・改良実装バージョン：V6

## M. コマンドフォーマット出力の扱い

V8 では、コマンドフォーマット出力は使用できません。

[対象]

コマンドフォーマット出力を使用している場合。

[対処]

データマップ出力に移行する必要があります。  
移行の際のご相談については、弊社サポートまでご連絡ください。

[解説]

申し訳ございませんが、コマンドフォーマット形式の機能を中止いたしました。

- ・改良実装バージョン：V5

## N. PDF ファイルの表示フォントの扱い（Castのみ）

PDF ファイルを Adobe Reader で表示した際の表示フォントが V5 と V8 で以下のように異なります。

V5 では、出力の PDF ファイルは MS 明朝及び MS ゴシックの代替フォント（※）にて表示されます。

（※）代替フォント

GothicBBB（MS ゴシック）→ KozGoPro-Medium

Ryumin-Light（MS 明朝）→ KozMinProVI-Regular

V8では、MS明朝及びMSゴシックにて表示されます。

[対象]

Cast製品を使用している場合。

[対処]

特に対処の内容はありません。

[解説]

一般的なWindowsの表示フォントMS明朝、MSゴシックにて表示されるように改良いたしました。

・改良実装バージョン：V5.2

## O. PostScript フォントの表示の扱い

フォームにおいて、以下のPostScriptフォントを利用している場合、V5とV8で出力フォントが異なります。

<Print製品の場合>

- ・V5の場合、代替フォント（※）で出力されます。
- ・V8の場合、指定のPostScriptフォントで出力されます。

<Cast製品の場合>

- ・V5の場合、代替されるフォントによる文字間隔が設定・表示されます。
- ・V8の場合、指定のPostScriptフォントにより文字間隔が設定・表示されます。

（※）代替フォントについては、V8製品の「機能・オブジェクトガイド」の「第20部 フォントについて」の**FormCast**の欄をご覧ください。

[対象]

次の1、2の条件が揃った場合にこの現象が発生します。

1. 固定テキスト、テキスト変数、日付変数、ページ変数を利用している。
2. 以下のフォントを利用している。

AvantGarde

Helvetica-Narrow

Bookman

NewCenturySchlbk

Palatino

ZapfChancery

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V8でV5と出力を行うことができます。

① V8の製品導入ディレクトリ直下の”CreateV8.ini”の[Form]セクションに  
”ChangeFontType = 1”と入力します。

② ①設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。

または、①設定の後、UpToV8（資源ファイル変換ツール）にて、フォームファイルを変換します。

この設定は、開発環境にて行います。

[解説]

PostScript フォントを指定しても、FormCast のフォント代替処理が反映されるというV5の不具合のため、V7にて改良を行いました。この結果、フォントの出力結果が異なりますが、表記の互換設定にて互換性を保つことが可能となっています。

・改良実装バージョン：V7

## 6. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、弊社サポートページよりダウンロードできます。

また、アップデート作業に関して、ご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■サポートホームページ

URL : <http://support.createform.net/>

■サポートお問い合わせ

E-Mail : [support-c@iftc.co.jp](mailto:support-c@iftc.co.jp)

## Create!Form

アップデートマニュアル[V5→V8]

---

発行日 2008年4月9日 [第2版]

発行者 インフォテック・アーキテクト株式会社